

基本目標2 だれもがスポーツに親しむことができる環境の充実

※総合型地域スポーツクラブ (イ):にしはらスポーツクラブ
(ロ):ココスポ東伏見

施策の柱	施策	担当課・団体	令和6年度予定	令和6年度評価							令和7年度担当課目標		
			具体的な取組内容	取組実績	担当課・団体の評価とコメント					次年度への課題	具体的な事業 又は取組計画		
					評価の着眼点							担当課評価コメント	評価
					I	II	III	IV	V				
(1) 身近な環境の活用	① 公共スポーツ施設の利用促進 さまざまな情報媒体を活用して、市内の公共スポーツ施設の情報を全体的に発信するとともに、魅力的な事業を提供することによって、利用者・利用圏の拡大を図ります。	指定管理者	・4半期に一度の市報にチラシ折込 ・公式LINEの配信	チラシ配布、公式LINE配信は通年で実施	4	4	4	4	4	3ヶ月クール制教室に合わせて折り込みチラシ配布した。	A	チラシの経費が増加している。	・4半期に一度の市報にチラシ折込 ・公式LINEの配信
		体育協会	スポーツ相談窓口の充実(広報・ホームページ・LINEでの発信強化)	スポーツ相談窓口の相談実績50件	3	3	3	3	3	ほぼ計画通りであったが、相談しやすい環境づくりは必要。	B	スポーツ相談窓口の利用促進のための広報活動を行う。	相談窓口はLINE相談の増で前年度以上の実績を目標とする。
		スポーツ振興課	事業を実施するにあたり、HP・SNS等を活用した周知	・毎月最終日曜日に開催のENJOYニューススポーツ等市主催事業を市HPや、市報にて広報した。 ・指定管理者の事業ではあるが、年4回開催されるシルバーウィーク・シルバー月間の事業について市報で広報を行い、65歳以上の利用者の拡大を図った。	4	4	4	4	4	SNSなどを活用し、計画通り公共スポーツ施設での事業を実施できた。	A	・ENJOYニューススポーツの参加者が高齢化しているため、利用者の年齢層の拡大。 ・対象の方への伝わりやすい広報を行う必要がある。	事業実施にあたり、HP・SNS等を活用し、事業の概要を伝え、スポーツ施設利用の拡大を目指す。
	② 学校施設や身近な空間・場所の有効活用 スポーツ施設以外にも学校施設や公民館、市民交流施設といった公共施設、公園等をスポーツ活動の場として活用する取組を推進します。また、地域住民が生活に身近な場所で自主的にスポーツ活動ができるよう、スポーツを実施する環境を充実していきます。	公共施設マネジメント課	公共施設等跡地活用方針に基づき、跡地活用を検討する。	旧ひばりが丘中学校跡地活用基本方針(素案)を作成し、スポーツに親しむことができる場の検討を行った。	2	3	2	2	2	・旧ひばりが丘中学校跡地活用においてテニスコートの整備を検討したが、地域住民からの反対意見も多く、引き続き丁寧な合意形成が必要である。 ・ボール遊び広場も併せて、スポーツ活動ができる環境の充実に向けて検討していく必要がある。	C	旧ひばりが丘中学校跡地活用基本方針(素案)を作成し、スポーツに親しむことができる場の検討を行ったものの、引き続き地域市民との丁寧な合意形成が必要である。	・旧ひばりが丘中学校跡地活用基本方針の策定に向け、地域市民と丁寧な合意形成に努める。 ・公共施設や市有地等の有効活用を推進する。
		児童青少年課	各児童館の施設の特性に合わせて、遊びを通じての日常のスポーツ活動やイベントとして運動を楽しむ企画運営の実施	各児童館でポッチャを開催	4	4	4	4	4	「ポッチャ」等、子どもたちにとってなじみの薄い競技も実施され、運動を楽しむだけでなく、子どもたちの興味の幅を広げるきっかけとなった。	A	各児童館ごとに状況が異なるため、職員・用具・空間の体制整備	各児童館毎にスポーツを身近なものと感じられるようなイベントを企画(卓球・ポッチャ等)
		文化振興課	リハーサル室や音楽練習室を活用したダンス教室の実施	保谷こもれびホール指定管理者とスポーツセンター指定管理者との共催事業として、ダンス教室を43回実施した。	4	4	4	4	4	I:文化施設の設備を活用し、スポーツ活動の場としても活用する施策を実行することで、だれもがスポーツに親しむ環境の充実に寄与できた。 II:文化芸術振興計画他分野と結びつけた文化芸術活動・交流の促進に合致する。 III:事業自体が障害の有無にかかわらず楽しむ機会としていないので予定通りと評価とした。 IV:スポーツ振興課と文化振興課が連携して事業に取り組んだ。 V:ダンス・軽体操ができる場所として、市HPで周知している。	A	文化施設においてダンスができる環境をさらに充実させる。	保谷こもれびホール指定管理者の共催事業として引き続きダンス教室を実施するとともに、より多くの場所でダンスができるよう、西東京市民文化プラザへの鏡の設置を検討する。
		協働コミュニティ課	・身近なスポーツができる場所として、市民交流施設の活用 ・コミュニティセンターでは、指定管理者による事業や活動団体と連携し、地域のスポーツ活動を行うきっかけづくりを行う。	・各市民交流施設では、卓球や体操、ポッチャなどの活動場所として、誰もが身近なスポーツができる場として、活用された。 ・コミュニティセンター主催の健康体操教室、ポッチャ、輪投げ大会などを開催し、地域の方がスポーツに触れるきっかけづくりを行った。	3	3	3	3	3	市内各地にある市民交流施設で、市民によるさまざまなスポーツ活動が行われ、身近なスポーツのできる拠点として活用されたほか、コミュニティセンター主催事業などにより、身近なスポーツのきっかけづくりを行った。	B	・各市民交流施設の認知度を向上し、スポーツの場として活動できることの周知を図っていく。 ・コミュニティセンターでの主催事業の担い手など、地域とより連携して取り組む。	・身近なスポーツができる場所として、市民交流施設の活用 ・コミュニティセンターでは、指定管理者による事業や活動団体と連携し、地域のスポーツ活動を行うきっかけづくりを行う。
		みどり公園課	・HP等を活用し、健康遊具のある公園を周知する。 ・健康遊具のある公園の拡大や更新等を検討する。	・HPにおいて、市内の健康遊具のある公園について周知した。また、健康遊具の使い方についても併せて紹介をすることで、利用の促進を図った。 ・開発事業における公園の整備基準の中で、健康遊具の設置を推奨し、健康遊具のある公園の拡大を図った。	4	4	4	3	3	ホームページで健康遊具の周知や、健康遊具のある公園を増やすことができた。	A	・(評価の着眼点により)関係各課等との働きかけや連携の機会がなかった。 ・来年度、新たな事業計画は無し。	引き続き、健康遊具のある公園の周知を図るとともに、健康遊具のある公園の拡大や更新等の検討に取り組む。

施策の柱	施策	担当課・団体	令和6年度予定	令和6年度評価							令和7年度担当課目標		
			具体的な取組内容	取組実績	担当課・団体の評価とコメント					担当課評価コメント	評価	次年度への課題	具体的な事業 又は取組計画
					評価の着眼点								
					I	II	III	IV	V				
		地域学習支援課	学校教育の支障のない範囲で各 学校施設開放運営協議会や学校 と連携・協力し、市内の学校施設 の貸出を行う。	・学校教育に支障のない範囲で学校施設の地 域開放を実施することができた。 ・令和6年度においては、前年度と比較し同程度 の開放を実施した。	4	4	4	4	3	各学校施設開放運営協議会や学 校とは常に連携を取りながら、学 校教育に支障のない範囲内で、 可能な限り学校施設の貸出を 行った。	A	・学校施設の建替えにあたり、市立小中学校 における学校施設の地域利用の推進を目指 し、特別教室ごとの特徴を捉えた対応策を整 理する。 ・学校施設使用申請手続きの利便性向上の 調査・検討	・学校施設の建替えにあたり、市立小中学校 における学校施設の地域利用の推進を目指 し、特別教室ごとの特徴を捉えた対応策の まとめ
		公民館	中学生・高校生対象ダンス講座	・柳沢公民館主催「中学生・高校生対象講座 K -POPを踊ろう！」を実施した。 ・様々な学校、学年の子供たちが地域の中で出 会い、学びを通して交流し関係を育む機会と なった。 ・講座の成果を発表する機会として11月の柳沢 公民館主催「ヤギフェス」に出演、及び2月の児 童館主催「中学生・高校生年代プロジェクト」に 出演した。 ・講座回数 全19回、定員 12人、参加人数 12 人、延べ人数 167人	4	4	4	4	4	・公民館事業計画に位置付けら れた、市内の中学生だれもが参 加できる事業として実施した。 ・普段通う学校以外でのつながり を生み、参加者にとって新たな居 場所となった。 ・発表の場として、公民館まつり や児童青少年課主催のイベント に参加することで、地域を知る機 会にもなった。	A	本講座は、今年度で4年目を終え、中高生 が公民館を利用してスポーツ活動をするこ とに関しては一定の成果を得ることができた。 次年度に向けては中高生に限らず、幅広い 世代を対象にスポーツの機会を提供するこ とを課題とする。	・芝久保公民館主催の芝久保交流会の中 で、健康維持及び交流のために定期的に ポッチャやインドアモルックを実施する。 ・地域の子もたちと公民館利用者が交流 する機会として、近隣小学校の放課後子ども 教室とのポッチャ大会を計画している。
		指定管理者	・東京ドームでのジュニア親善野球 大会 ・各学校に放課後教室としてモル ック体験を実施	・東京ドームでジュニア親善野球大会に西東京 市選抜チームで参加 ・東小と芝久保小で放課後教室モルック体験を 実施	4	4	4	4	4	東京ドームジュニア親善野球で は選手25名に加え、オープニング セレモニーにてダンス教室の子 供たち18名が参加。	A	日程により実施できないことがある。	・東京ドームでのジュニア親善野球大会 ・各学校に放課後教室としてモルック体験を 実施
③	近隣自治体、民間事業者等と連携した スポーツの場の充実 多摩北部都市広域行政圏協議会の 構成市である小平市、東村山市、清 瀬市、東久留米市と連携し、公共ス ポーツ施設の相互利用(屋内体育設 施の個人開放に限ります。)の促進 を図ります。 また、市内の民間事業者等が保有 するスポーツ関連施設におけるス ポーツ教室等の開催について、共 同開催等の調整を行い、市民のス ポーツの場を充実していきます。	スポーツ振興課	・多摩北部都市広域行政圏協議会 の構成市である自治体との連携 ・スポーツ大会の実施 ・生涯スポーツ専門委員会での検 討	・生涯スポーツ専門委員会での検討・調整し、10 月26日(土)に東久留米市を会場とした「たまる くとクリーンウォーキング」実施した。 ・実施に当たっては、準備段階から構成市の自 治体とは、生涯スポーツ専門委員会を通じて連 携することができた。	4	4	4	5	4	定期的に広域行政圏協議会会議 を持ち、連携及び情報交換を重 ね、広域行政圏での事業を実施 した。	A	次年度は東村山市が担当市となり、実施内 容が令和6年度と変更になり新たな事業(e スポーツ)を予定しているが、構成市の自治 体との調整が必要となる。	・多摩北部都市広域行政圏協議会の構成市 である自治体との連携 ・スポーツ大会の実施((eスポーツ事業) ・生涯スポーツ専門委員会での検討
④	公共スポーツ施設の計画的な改修・ 設備更新 老朽化が進んでいる市内の公共 スポーツ施設を計画的に改修・設備更 新を行い、市民が利用しやすいス ポーツ環境の整備に取り組みます。	公共施設マネジメント課	公共施設個別施設計画に基づく計 画的な修繕・工事の実施	・南町スポーツ・文化交流センター「きらっと」の 空調設備更新工事業設計委託を実施した。 ・スポーツセンターの排気ファン交換工事業を 実施した。	4	4	3	3	3	計画通り、スポーツ施設の修繕・ 工事業を実施した。	B	今後公共施設が一斉に更新時期を迎え、厳 しい財政状況が想定される中、財政負担の 軽減・平準化を図りつつも、適切な維持・管 理が必要である。	公共施設個別施設計画に基づき、計画的な 改修・修繕を実施し、適切な保全に努める。
		教育企画課	令和6年度は特に該当なし。	該当なし	-	-	-	-	-	-	-	-	令和7年度は特に該当なし
		スポーツ振興課	計画的な修繕・工事の実施 【スポーツセンター】排気ファン交換 工事、非常照明装置更新工事 【きらっと】空調設備整備工事 【屋外施設】管理棟等建設工事	計画的な修繕・工事の実施 【スポーツセンター】排気ファン交換工事、非常 照明装置更新工事 【きらっと】空調設備整備工事 【屋外施設】管理棟等建設工事	4	4	4	3	3	関係部署と調整し、計画的な予 算要求を図っていく。	B	計画的に改修・設備更新を進める。 特定財源の確保を目指す。	計画的な修繕・工事の実施 【スポーツセンター】雑排水槽ポンプ等取替 工事、排気ファン交換工事 【きらっと】空調設備更新工事、汚水ポンプ取 替工事、電話交換機更新工事 【ひばりアム】テニスコート改修工事
(2) パラスポーツ・インクルーシブスポ ーツの推進	① パラスポーツ・インクルーシブスポ ーツの支援 障害のある方のスポーツ機会の充 実を図るため、公共スポーツ施設や 総合型地域スポーツクラブにおける パラスポーツ・インクルーシブスポ ーツの取組を推進するとともに、障害 の有無に関わらず市民だれもがと もにスポーツを行うことができる場や機 会を創出します。	障害福祉課	・スポーツ支援事業の開催：月1回 ・かわうそ水泳教室の開催：月1回 ・障害者(児)夏季水泳事業 ・パラスポーツ交流事業の開催 (パラスポーツの体験会や講演会 を実施予定)	・スポーツ支援事業の開催：月1回(年12回) ・かわうそ水泳教室の開催：月1回(年10回) ・障害者(児)夏季水泳事業 ・パラスポーツ交流事業の開催 (パラスポーツの体験会や講演会を 実施)	4	4	3	4	3	・各事業を通し、障害者(児)への スポーツ機会の提供、障害者ス ポーツ啓発を図った。 ・障害者(児)夏季水泳事業につ いては、市内中学校のプールで 実施されたが、実施日の気温、水 温が規定値を超えたため、予定 時間到達前に終了する運びと なった。障害者(児)のスポーツの 機会を奪わないためにも、屋内施 設等での通年実施の実現が必要 と考えられる。 ・パラスポーツ交流事業におい ては、アスリートを呼んでのトライ アスロン体験・義足体験などを 実施したが、集客に厳しいところ が見られた。広報の努力が求めら れる。	B	障害者(児)夏季水泳事業については、温 暖化の影響により、市内小中学校の水泳の授 業が一学期のみとなったことから、夏休み中 の学校のプールの借用が困難となった。今 後は、現在夏季の繁忙を理由に7月8月に 使用を断られているスポーツセンターで行っ ているかわうそ水泳教室を、通年で実施す る必要がある。障害者(児)のスポーツの機 会を奪わないために、指定管理者と協議を 行う必要がある。	・スポーツ支援事業の開催：月1回 ・かわうそ水泳教室の開催：月1回 ・障害者(児)夏季水泳事業 ・パラスポーツ交流事業の開催 (パラスポーツの体験会などを実施予定)

施策の柱	施策	担当課・団体	令和6年度予定	令和6年度評価							令和7年度担当課目標		
			具体的な取組内容	取組実績	担当課・団体の評価とコメント					担当課評価コメント	評価	次年度への課題	具体的な事業 又は取組計画
					評価の着眼点								
				I	II	III	IV	V					
		公民館	インクルーシブな社会を考える講座「ポッチャ講習会」の実施	・谷戸公民館主催「インクルーシブな社会をめざす講座 ポッチャでなかまづくり～親子でポッチャ～」を実施した。 ・ポッチャ競技を通して、参加者がさまざまな人たちと関わる中で多様性や共生社会について関心を持ち、交流を回り仲間を増やしていく機会となった。 ・講座回数 全8回、定員 24人(親子12組)、参加人数 19人(親子8組)、延べ人数 123人	3	3	3	3	3	・公民館事業計画に位置付けられた、インクルーシブな社会を目指す講座として実施した。 ・親子で日常関わらない人たちと出会い、地域に様々な人がいることを知る機会となった。 ・最終回の大会も大いに盛り上がった。一方で、初回から誰もが安心安全な場であると感じるためのさらなる工夫について考える機会となった。	B	初回から全員が安心を共有できる環境を作り出すことは非常に難しいが、参加者にとっての居心地の良さや、継続性を高めるためにどんな工夫や仕掛けを行っているかが課題である。	第25回夏季デフリンピック競技大会(東京2025デフリンピック)は、日本で初めての開催であり、また1924年にパリで開催されてから100周年の記念となる大会が開催される。谷戸公民館では、インクルーシブな社会を目指す講座として、聴覚に障害のある人とふれあい、障害の有無にかかわらず、互いに尊重し合い、デフスポーツの魅力や価値を伝え、自分らしく生きられる社会(共生社会の実現)について考える講座を計画している。
		指定管理者	モルック体験会、ニュースポーツ体験会、かわうそ水泳教室の受託	予定通り実施。	4	4	4	4	4	予定通り実施	A	ニュースポーツの種目選別が困難	モルック体験会、ニュースポーツ体験会、かわうそ水泳教室の受託
		総合型地域スポーツクラブ	ポッチャなど障がい者スポーツ内で継続。その他、高齢者事業の中でモルックを実施検討中(に)	・ポッチャ月2回継続中。(に) ・モルック定期実施検討中。(に) ・障害者自立支援施設、適応指導教室・ひきこもり相談室への体育館・グラウンド・テニスコートの開放(に)	4	3	2	2	2	各種競技の道具を複数セット購入し、パラ競技の認知促進に努めた。(に)	B	施設の段差が多いが、スロープ設置など環境整備資金的に困難。駐車場は幅も狭く数も少ない。(に)	モルック新規実施、ノルディックウォーキング月1回実施(に)
			障害者自立支援施設、適応指導教室	毎月1回障害者スポーツを開催(コ)	5	4	4	4	4	計画通り実施できたクラブのプログラムを超えて地域イベントにも参加できた。(コ)	A	用具の提供など申し分なく何不自由なく開催出来ました。(コ)	今まで通り月1回の開催だけは継続していきたい。(コ)
		スポーツ振興課(スポーツ推進委員)	ENJOYニュースポーツ(毎月最終日曜日開催)	毎月最終日曜日に開催 広報や口コミにより、若い新規の参加者が増えてきている。	4	4	4	4	4	機会の創出に取り組むことができた。	A	引き続き継続する。	引き続き子どもから大人まで、障がいの有る無しに関わらず楽しめるイベントにする。
②	パラスポーツ・インクルーシブスポーツを支える人材の発掘・育成 障害のある方がスポーツを行うきっかけづくりや継続する取組を支えるため、パラスポーツ・インクルーシブスポーツの指導者や当事者を支援する人、事業の運営を支援するボランティアスタッフなど、支える人材の発掘・育成を推進します。	障害福祉課	西東京市障害者スポーツ支援事業委託事業者から提出される事業報告書・補助員報告書・反省会概要をもとに必要に応じて委託事業者と調整・協議を行う。	委託事業者から提出された報告書等を確認し、スポーツ支援事業に取り組んだ。	3	3	3	3	3	委託事業者から提出された報告書等を確認し現状を把握した。	B	関係各所との連携を図る。特に、人材の発掘・育成はスポーツ所管部門と連携する必要がある。	該当なし
		指定管理者	・障害者水泳指導者の育成 ・パラスポーツ指導員の資格取得推進	かわうそ水泳教室にて指導者を育成	4	4	4	4	4	指導員の育成はできている。資格取得者は増えていない。	A	人事異動等により、資格取得が困難。	障害者水泳指導者の育成 パラスポーツ指導員の資格推進
		体育協会	・初級パラスポーツ指導員の資格取得推進 ・パラスポーツ開催を通して支える人材の発掘	・初級パラスポーツ指導員の資格を1名取得した。 ・障害者も参加できるスポーツまつりやリレーマラソン開催を通してスタッフ育成を行った。	4	4	4	4	4	計画通り実施。	A	・資格を生かしたイベントの開催 ・デフリンピック開催に合わせたイベントの企画及び開催	デフリンピックの機運醸成として、山本恒安氏と相談し、卓球大会開催を企画する。
		総合型地域スポーツクラブ	障害者のクラスは指導者が付いています。(に)	講習を受講した指導員による実施(に)	4	4	4	3	3	・取り組み実績に記入の教室の実施には指導者が指導。場所の提供のみ。 ・指導講習にスタッフが参加(に)	B	多人数の参加には指導員が不足(に)	人材育成、人材の確保に努める。(に)
			東京都障害者スポーツ協会と連携し、人材確保・育成の取組(コ)	東京都・クラブ講師の尽力もあり人材不足はだいぶ解消された。(コ)	4	4	4	4	4	東京都障害者スポーツ協会、スポーツ振興課との連携・協力を継続する。(コ)	A	教室スタッフ不足はだいぶ解消されたが、施設確保など課題はまだ多い。(コ)	連携とは別に市と学校と連携した事業となるよう取り組んでいく。(コ)
		スポーツ振興課(スポーツ推進委員)	スポーツ推進委員の初級パラスポーツ指導員取得のため、講習への参加を周知する。(表彰の基準に含まれるため)	スポーツ推進委員及び体育協会傘下団体等に、周知を行った。	4	4	3	4	4	引き続き、パラスポーツ指導員資格取得を周知していく。	A	引き続き継続する。	初級パラスポーツ指導員資格未取得のスポーツ推進委員に、講習への参加周知を行う。
③	パラスポーツ・インクルーシブスポーツにおける連携体制の充実	障害福祉課	スポーツ所管部門との連携	障害者または障害児を持つ保護者からの相談等に対応するため、スポーツ所管部門との協議を行った。	3	3	3	3	3	都度、相談等に応じ所管部門と協議を行うことができた。	B	障害者スポーツ協会との接点が少ない。	スポーツ所管部門との連携
	障害のある方の定期的・継続的なスポーツ機会を創出するため、東京都障害者スポーツ協会や多摩北部都市広域行政圏協議会などと連携して、パラスポーツ・インクルーシブ	指定管理者	各支援事業者と協力して、インクルーシブスポーツの体験会開催を検討	開催検討したが、会場確保が困難等の理由により未実施	3	3	2	2	2	検討したが、会場確保が困難なため実施できず。	C	支援事業者との接点が少ない。	各支援事業者と協力して、インクルーシブスポーツの体験会開催を検討

施策の柱	施策	担当課・団体	令和6年度予定		令和6年度評価							令和7年度担当課目標	
			具体的な取組内容	取組実績	担当課・団体の評価とコメント					次年度への課題	具体的な事業 又は取組計画		
					評価の着眼点							担当課評価コメント	評価
					I	II	III	IV	V				
	<p>ボートの指導者やボランティアの市内スポーツ施設への派遣や新規プログラムの開催、指導者同士の交流の機会の創出を促進します。</p>	<p>体育協会</p>	<p>・東京都障害者スポーツ協会との情報連携 ・スポーツ相談窓口の庁内連絡会での情報連携</p>	<p>・東京都パラスポーツ課及び東京都障害者スポーツ協会との情報交換を行った。 ・庁内連絡会は2回開催され情報連携できた。</p>	4	4	4	4	4	計画通り実施できた。	A	<p>東京都障害者スポーツ協会との連携を深め、パラスポーツ指導者の紹介や育成が課題。 庁舎内連絡会の情報を有効に活用してスポーツ相談窓口に生かす。</p>	<p>・東京都障害者スポーツ協会と更なる連携を行う。 ・庁舎内連絡会を年2回開催する。</p>
		<p>総合型地域スポーツクラブ</p>	<p>自主的な活動は行わないが、施設内のイベントへの参加・交流を行う。(に)</p>	<p>障害者クラスさくらの園に週1回体育館提供、グラウンド開放、夏祭りの合同実施(に)</p>	4	4	4	4	4	連携が取れ、イベントも合同開催した。(に)	A	<p>よりコミュニケーションを取り、協力して何か活動出来たら良い。(に)</p>	<p>検討中(に)</p>
			<p>東京都の補助金を活用(コ)</p>	<p>例年までと同様に東京都障害者スポーツ協会の補助金を活用(コ)</p>	4	4	4	4	4	東京都障害者スポーツ協会、スポーツ振興課との連携・協力を継続する。(コ)	A	<p>ボランティアの活用により何とか乗り切ってきた。(コ)</p>	<p>安定的な教室の継続に向けて学校との本格的な連携事業の構築を目指す。(コ)</p>
		<p>スポーツ振興課</p>	<p>東京都等の補助金活用</p>	<p>・障害の有無、年齢を問わず参加できるENJOYニュースポーツやポッチャ大会を実施することができた。 なお、この2つの事業については、東京都から事業費2/3の補助金を活用した。 ・多摩北部都市広域行政圏協議会主催の多摩スポーツ大会では、東久留米市の主管でクリーンウォーキングを実施し、市内からの参加者もあり、各市からの参加者と交流を図ることができた。</p>	<p>引き続き、障害者が参加できる機会の提供を行う。</p>	4	4	4	3	4	A	<p>ポッチャ事業を実施するにあたっては、スポーツ推進委員が指導者役として取り組んでいるが、スポーツ推進委員定員20名のところ令和6年度は17名だったため、特にポッチャ大会の運営はギリギリの状況であったので、推進委員の確保が必要である。</p>	<p>東京都等の補助金を活用し、ENJOYニュースポーツやポッチャ大会を例年どおり実施する。合わせて、スポーツ推進委員の確保に努める。</p>